

韓国俳優 アン・ソング、パク・チュンフン、イ・ボムスらと交流

第2回日韓次世代交流映画祭

Japan-Korea next generation film festival

創造的な3日間を演出した！ 泊り込みで学生のパワーを総結集！！



あふれる達成感、留学生と深めた絆。

12月11日から3日間、別府ビーコンプラザで「第2回日韓次世代交流映画祭」が開かれた。芸短生を中心に大分・別府地区の短大・大学生約80人がスタッフとして参加した。

国際的な大規模イベントだ。会場設営、上映・照明、受付、ゲスト案内、控室などグループごとの練習も積んだ。「誰かがやってくれる」。そんな甘えは許されないことを身をもって感じた。私は司会・進行役を務めた。

映画祭本番。学生間でよく連絡を取り合い、ゲストや観客に対して冷静に対応した。みんな生き生きとしていた。

夜10時過ぎにホテルに戻り、翌日の準備をした。睡眠時間は数時間。しかし、弱音を吐かなかった。映画祭までに培った信頼関係があったからだ。

「疲れたあ〜」と言いつつも、微笑み、達成感にあふれる表情。韓国留学生との絆も深まった。第2回映画祭で見つけた課題は、第3回で生かせばいい。私たちは若いだから。

written by 森本 絵美莉(1年)



写真掲示板が好評！作業は深夜3時まで。

映画祭運営の軸になった学生約20人は、JR別府駅前の格安ホテルに泊まりこんだ。重い荷物を持ち、重い足取りで部屋に入る。和室に敷かれた布団に一目散に倒れこむ。「はあ、疲れた……」。

映画祭は3日間。写真掲示板を作った。「お風呂に入ったら、私の部屋に集まって」。メールを送る。作業開始！アンさんとのツーショットを撮った学生もいる。ちゃっかりしてるな。

総勢15人。写真を切ったり張ったりの作業。誰もが眠い。終わったのは午前3時。翌朝は6時半に起きた。トップスター並みのスケジュールだった。そのかいは十分にあった。

会場入り口の掲示板に、お客様が食いついた。「あっ、イ・ボムスさん。かっこいいわね」「アン・ソングさんも」「よくできてるわ」韓流ファンの会話が聞こえてきた。その一言で、気分は天国に変わった。

written by 赤池 すずか(1年)



声 Voice 私の映画祭 ～学生スタッフひとこと集～

- 1本の映画をみんなで完成させたような充実感にあふれている(M)
- 映画で自分の知らない世界を知った(K)
- スタッフの真剣な眼差しがレンズ越しに伝わった(F)
- 記録係。苦しい時もあったが、私を成長させた(K)
- 「初めて」をたくさん経験できた(M)
- 受付担当。おつりを何度か、間違えそうになった(T)
- スタッフ全員の努力と団結があった(Y)
- チマ・チョゴリで歩くのに苦労した。今までにないくらい忙しく、緊張感があった(K)



- 韓国語が話せないことに「いがいが」した(H)
- 普通の学生生活にはない貴重な体験だった(S)
- 心残りの部分もあるが、それ以上に得る物があった(I)
- 「君が記録映画を作って」。教授の一言で私の映画祭は始まり、今も続く(M)
- 協力すること、自分ができることが少し分かった(S)
- 会場係。最終日の座談会で、机の位置がずれていた(Y)
- 言葉は違っても、気持ちがあれば通じ合える(F)
- 「案ずるより産むが易し」。いくら失敗はあったけど(N)

제2회 한일 차세대 교류 영화제